

幼稚園における教育課程の編成

— 帝京めぐみ幼稚園教育課程編成の実際 —

溝口 綾子

Organize of A Curriculum in Kindergarten
— Experience in Teikyo Megumi Kindergarten —

Ayako MIZOGUCHI

要 旨

幼稚園は、幼児の発達を促すために設定された教育的環境の下で、それぞれの時期にふさわしい生活体験を無理なく得ていかれるように計画的に教育を行う場である。教育課程の編成にあたっては、園生活の実際の姿を捉える中で、幼児の発達に即しながら、幼児の遊びや生活が質的に変容していく道筋を見通していくことが必要である。帝京めぐみ幼稚園には、これまでに文章化した教育課程は存在していない。そこで、まず、過去3年間の幼児の実態から発達の過程を捉え、そこから、3学年の年間のねらいを導き、各期のねらいと内容を設定した。本年度はこの教育課程を基に指導計画を立案し保育実践に向けている。各教師は、幼児の育ちから必要な経験を明確にして指導をすることによって、自分の保育を意識化することにつながっている。

Summary

Kinndergarten is a field of early education. It's educative system for an early stage of childhood. When we are organized a curriculum, we see into play and life of an infant.

Teikyo-Megumi-kindergarten don't keep a curriculum. So we are organized a curriculum to the data of the past 3 years. On this year, we educate to the base of curriculum. Our preschool teachers take hold of development for infant. Besides, They are aware of quality to early childhood Education.

1. はじめに

幼稚園教育において教師は、幼児とともに生活しながら幼児の生活する姿を見守り、幼児が発達に必要な経験を得られるように援助していくという重要な役割を担っている。そして、幼児は日々の生活の中でさまざまな人やもの、事象と出会い、それらへのかかわりを通してさまざまに学び成長していくのである。すなわち、幼児の発達は、幼稚園、家庭、地域社会と連続的に営まれていく生活の中で積み重ねるさまざまな生活経験によって促される。特に幼稚園は、その発達を促すために設定された適切な教育環境の下で、それぞれの時期にふさわしい生活体験を無理なく得ていかれるような計画的な教育を行う場である。

一方、今日、幼児を取り巻く環境の変化に伴い、家庭や地域においては幼児が思い切り遊べる空間や時間が少なくなり、友だちと触れ合う機会が持ちにくくなっている。幼児の発達にとっては、十分な遊び場や時

間、友だちとかわるごとの出来る環境が大きな意味を持つと考える。このような環境を十分に保障するためにも幼児が健全な生活を営める場として幼稚園の役割は重要である。

幼稚園においては、幼稚園教育要領の幼稚園教育の基本に基づいて、小学校以上の学校教育と同様に、教育の全体計画としての教育課程を編成し、組織的・計画的な指導を行う必要がある。そのためにはまず、幼稚園の3歳入園から5歳修了までを見通し、幼児とともにどのような園生活を作り出していくかということについて、園全体で検討し保育者間で共通理解を図ることが必要である。それは、園運営において3年間の保育の全体計画である教育課程を編成し、これを基盤に指導計画を作成して保育実践していくことが保育の質にかかわる重要な課題と考えるからである。

教育課程の編成にあたっては、園生活の実際の姿を捉える中で、幼児の発達に即しながら、幼児の遊びや生活が質的に変容していく道筋を見通していくことが

必要である。しかしながら、実際の幼児の姿には、臨機に対応を迫られる場面も多々あり、事前に計画を立てることが困難と思われるであろうが、予測のつかない状況が展開されるからこそ、幼児の発達や生活する姿の見通しを確実にもって、編成に当たることが教育として求められていると考える。

帝京めぐみ幼稚園（以下本園という）には、これまでに文章化した教育課程は存在していない。そこで、これまでの保育実践の成果や資料を基に教育課程を編成した。本論では、編成の実際とその結果を考察する。

2. 幼稚園教育課程の意義と役割

幼稚園においては、幼児期にふさわしい生活を通して幼児一人ひとりが幼稚園教育要領に示すねらいや内容を着実に身に付けていくことが求められる。つまり、幼稚園教育要領に基づいて、幼児の心身の発達や各幼稚園の実情、地域の実態に適した教育課程を編成することになる。『幼稚園教育要領』では、幼児期の発達の特性を踏まえた教育について、幼稚園教育は環境を通して行う教育を基本とすると位置づけている。これと関連して重視する事項として次の3点を挙げている。

1)

- (1) 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されること
- (2) 幼児の自発的な活動としての遊びを中心として、ねらいが総合的に達成されるように指導すること
- (3) 一人ひとりの発達の特性に応じた指導を行うこと

環境を通して行う教育は、幼児一人ひとりの発達に必要な経験が得られるよう、計画的な環境を構成し、幼児の主体的な活動が展開していかれるようにする教育である。すなわち、教師が幼児に直接的に働きかけるのではなく、幼児に経験させたい内容を盛り込んだ環境づくりをして、幼児の主体的な活動が生み出されるようにする教育である。これらについて『幼稚園教育要領解説』²⁾では「幼稚園は意図的な教育を目的とする学校であり、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼児期にふさわしい生活を通して、幼稚園教育の目的、目標の達成に努めることが必要である。このため、幼児の発達を見通しその発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行う必要がある」と、計画性のある指導について述べている。さらに「それぞれの幼稚園は、その幼稚園における教育期間の全体にわたって幼稚園教育の目的、目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めていくかを明らかにし、幼児の充実した生活が展開できるような全体計画を示す教育課程を編成して

教育を行うことが必要である」と教育課程の意義について解説している。

幼児教育は、幼児の日頃の生活を大切にしながら進めているということ踏まえると、教育課程の編成の仕方や考え方は、当然、小学校以上の学校教育における教育課程の編成とは異なるものである。小学校教育においては、学習指導要領に基づいて指導内容を学年に応じ、授業時数との関連において総合的に組織していく。これに対し、幼稚園においては、入園から修了までの全教育期間を見通し、幼児の生活経験や発達を基に、具体的なねらいや内容を組織していくことが必要となる。すなわち、教育課程には、めざす幼児像（教育目標）、それぞれの発達の時期に育てたいこと（具体的なねらい）、そのために教師が指導し幼児が経験すること（具体的な内容）を示すことになる。³⁾これは各担任にとっては、指導計画立案の拠り所となるものであり、保護者や地域の人々に対しては、幼稚園の教育方針や教育の在り方を示すものとなる。

3. 幼稚園教育課程編成の実際

(1) 本園における教育課程編成に至るプロセス

本園の教育課程を編成するに当たっては、次のような過程を経て編成に至った。

- ① 学校教育法、幼稚園教育要領について全教員が学習し、理解を図る。
- ② 保育を意識化するために各教員が週日案を作成し実践する。それを基に週1回保育検討会を行うことにより、園児の生活の実態や発達の状況を捉える。
- ③ 本園のこれまでの教育方針、教育目標の見直しや、幼稚園教育に対する個々の教員の姿勢を再確認する。
- ④ 本園を取り巻く地域環境の実態や、本園が抱えている課題などを洗いなおす。

これらの基礎資料を基に本園では、どのような幼児像を描くのか、そのためにはどのような指導が必要なのかなどについて、保育検討会において全教員で共通理解を深めていくこととした。この際、各教員はそれぞれが担任している幼児の実際の姿を出し合い、本園の教育の目指す方向を確認しながら、その方向を目指すためにはどのような経験が大事なのかなど、具体的に話し合っていた。このような検討会は、お互いの意見を交流させることによりそれぞれの保育観や教育観を知ることとなり、次第に共有意識を持てるようになっていった。

(2) 教育課程編成の基本方針

本園教育課程の編成にあたっては、学校教育法、幼稚園教育要領の示す基本に従い、帝京短期大学の付設

の幼稚園として、短大との連携協力、本園の実情、これまでの保育実践の成果を基盤に、地域や保護者の期待、本園の教育方針を踏まえて次のような基本方針をおく。

- ・ 本園の教育目標に向かって、幼児が自分らしさを発揮する教育の実現を目指す。
- ・ 短大付設の幼稚園として、実践研究の場と教育実習の役割を担う。
- ・ 本園の教育の特色と保育運営を基盤にした教育の実現を目指す。
- ・ 幼稚園教育と小学校教育の連続性に配慮した工夫を図る。
- ・ 地域社会、保護者、関係施設との連携を深める。

(3) 教育方針と教育目標

本園の保育の重点は、創設以来、「よく見る」「よく聞く」「いろいろ体験する」の3つを掲げている。しかし、実際に保育を担当している教師たちは、その意味するところをあいまいにして共通理解されていなかった。まず、この3つについて、幼児に必要な経験は何か、そのために教師はどのような援助をしたらよいかなどを再確認することが必要である。すなわち、幼児一人ひとりが幼稚園の生活の中でさまざまな体験を通して自分の興味や関心に基づいて、したいことが実現できる環境を整える。また、幼児が環境にかかわる過程においては、その子らしい考え方、感じ方、取り組み方を大切に援助が重要と考える。これらの考えを含めて以下にあるような教育方針を定めた。

＜教育方針＞ 「よく見る」「よく聞く」「いろいろ体験する」を保育の重点とし、幼児一人ひとりが園生活の中でのさまざまな体験を通して、自己実現を目指す場となるようにする。

上記の教育方針を基盤にして、幼稚園修了までに身につくことを期待し、目指す幼児像すなわち教育目標を明確に設定する必要がある。それは、現在の教育が果たさなければならない課題や本園の幼児の実態、発達の過程を見通して設定することが大事である。以下はその教育目標である。

＜教育目標＞ 友だちや保育者、身近な環境にかかわる中で、自主性や探究心を持ち、明るくのびのびと自分らしさを発揮して、豊かな感性を持つ子どもを育てる。

- ・ 考える子ども
- ・ 行動する子ども
- ・ 感動する子ども

(4) 本園の教育の特色

教育課程は、本園や地域の実態を把握して、特色を生かし創意のあるものを編成する必要がある。そこで、本園の特色をまとめると以下のようになる。

- ・ 帝京大学グループの幼稚園である。
- ・ 3歳入園から5歳修了までの2～3年間を見通した教育を進める。
- ・ 遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。
- ・ 幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって、幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。
- ・ 身近な動物との触れ合いを通して「思いやり」や「やさしさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を実施している。
- ・ 帝京短期大学栄養士専攻学生による給食を取り入れた食育を実施している。
- ・ 日々の安全と安心のために、一次救命資格を持つ教員と、警備員が常駐している。
- ・ 短大キャンパスを利用した活動や自然体験、幼稚園内外のさまざまな人々とのかかわりなどの社会体験等、直接的な体験のできる場を取り入れる。
- ・ 近隣の小学校と、授業参観や研修、行事への参加の他、年長児と1年生の交流など、連携に配慮している。
- ・ 日常的生活習慣の形成は、幼児自身が自らの生活を見つめ、自立的に生活を進めようとする力を育てる。
- ・ 登降園は、徒歩通園の場合は集団登降園（1コース）、または保護者の送迎とする。遠距離居住の場合は、園バス通園となる。
- ・ 園行事は、幼稚園の生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に行動できるようにする。また、日常保育との関連が無理なく図れるよう、園全体のつながりを活かし、保育の内容や子どもの発達、年齢に応じたものとする。

(5) 発達の過程と年間のねらい

本園の教育課程の編成にあたっては、入園から修了までの教育期間における幼児の発達の見通しを持ち、きめ細かな対応が図れるようにすることが重要と考える。そこで、本園における過去3年間に累積されている週日案や保育実践記録などの資料を整理し、その上で、本園の実情や抱えている課題などを基盤に各学年ごとに発達の過程を導き出し、そこから年間のねらいを設定した。

① 3歳児学年

3歳児学年の年間のねらいを導くにあたっては、まず、昨年までの3年間に累積してきた保育記録や週日案を基に、3歳児の姿を描き出した。この姿と4歳児学年までの1年間の幼稚園での生活とを対応させ、本年度の3歳児の発達の過程を導き出した。以下が3歳児学年の3つの時期の発達の過程である。

<3歳児発達の過程>

- ・ 保育者や園の物や場所に慣れ親しんで、園生活が一人ひとりの生活リズムに組み込まれていく時期
- ・ 園の遊具や玩具を使ったり、園内外の自然物とかかわったりなど、自分の好きな遊びを十分に楽しむ時期
- ・ 園生活を一緒に過ごしてきた友だちに関心を持ち、友だちとかかわって遊ぶ楽しさを味わう時期

3歳児の保育の基本的なおさえとしては、3歳児で入園する子どもにとって最も大切な経験は、自分を意識することである。子どもたちにとって家庭とは異なる園生活は、いやがうえでも自分について知る機会になる。自分への気づきは必ずしも快の気持ちだけではない。葛藤や緊張もある。しかし、そうした体験もやがては自分を信頼し自分からものごとにかかわる意欲的な姿へと育てて欲しいということである。⁴⁾このような保育者の願いである子どもの姿と発達の過程を重ね合わせて年間のねらいをⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期とおさえた。以下に示すものが3歳児学年の年間のねらいである。

<3歳児年間のねらい>

- Ⅰ期：安定した園生活を送る
- Ⅱ期：自分の好きな遊びを見つけて自分から遊ぶ
- Ⅲ期：友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ

〈考察〉年間のねらいの時期については、前年度までは概ね、Ⅰ期は入園から9月、Ⅱ期は6月から3月、Ⅲ期は10月から3月という期間で達成され、必ずしもⅠ期が終わってⅡ期、Ⅱ期が終わってⅢ期へ移行するという考え方ではない。つまり、Ⅰ期の「安定した園生活を送る」は、どの子どもも6月頃には概ね達成に向かってはいるものの、教師との信頼関係の築きとともに安定した園生活を基盤にしなが、Ⅱ期の「自分の好きな遊びを見つけて自分から遊ぶ」に移行している。また、Ⅲ期の「友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ」もⅡ期と重複しながら移行している。このように3歳

児においては、前の期のねらいをベースに置きながら次の期のねらいへと移行するという捉え方とする。

② 4歳児学年

4歳児学年の年間のねらいを導くために、これまでに蓄積された資料と4歳児の1年間の発達の姿を考察して発達の過程をおさえた。すなわち、4歳児としての園生活への安定を基盤にして、自分の遊びの充実を図ることと、友だちとかかわることを発達の柱として捉えた。以下が4歳児の発達の過程である。

<4歳児発達の過程>

- ・ 園生活の仕方をつかみ、自分の好きな遊びに取り組み時期
- ・ 友だちと遊び場を共有したり、様々なかかわりを体験することで、友だちに関心を持ったり触れ合ったりする時期
- ・ 遊びの約束ごとやルールを理解して友だちと決めたことに従って遊んだり、馴染んだ場所や遊具に能動的にかかわり新しいやり方を創り出したりする時期

4歳児の保育の基本的なおさえとしては、初期は園環境に慣れ安定することであるが、やがては自分から環境に能動的に働きかけて自分の遊びを充実させていくこと、また、友だちへも自分からかかわっていくことが挙げられる。この発達の過程に対応して4歳児の年間のねらいを導き出した。次に示すものが4歳児の年間のねらいである。

<4歳児年間のねらい>

- Ⅰ期：安定して好きな遊びに繰り返し取り組む
- Ⅱ期：友だちに関心を持ち、触れ合いながら遊ぶ
- Ⅲ期：遊びの中の約束ごとがわかって遊んだり、新たな遊びを加えたりする。

〈考察〉4歳児の年間のねらいは、前年度までは概ね4ヶ月ほどで次の期に移行するという結果がある。Ⅰ期のねらい「安定して好きな遊びに繰り返し取り組む」は、概ね6月頃には達成に向かうが、ここで3歳進級児と4歳新入児と1年の保育経験差に注目する必要がある。つまり、安定する時期が異なることである。そのために、特に4歳新入児に対して教師は、子どもの気持ちをしっかりと受け止め、自分から遊びに取り組んでいられるよう配慮することが大切である。Ⅱ期のねらい「友だちに関心を持ち、触れ合いながら遊ぶ」は、概ね9月頃に達成に向かうが、Ⅲ期のねらい「遊びの中の約束ごとがわかって遊んだり、新たな遊びを加えたりする」が1～2ヶ月ほど重複している。これ

は、友だちや周囲の環境へ能動的なかかわりが仲間意識を生んだり、新しい遊び方を考え出したりすることにつながっているからと考える。

③ 5歳児学年

5歳児学年の年間のねらいを導くに当たっては、他の学年と同様にこれまでの蓄積された資料を基に幼児の生活する姿を捉えた。特徴的は姿としては、生活面では年長児としての自覚と新しい環境への能動的なかかわり、友だちとのかかわりでは自分の考えの伝達や共通のイメージや目的を持って遊びに取り組む姿がある。こうした姿から、年間の発達の過程をおさえた。以下に示すものは5歳児の発達の過程である。

<5歳児発達の過程>

- ・ 前年度までの園生活の経験で得た技能や遊びのイメージを活用して、自分なりの見通しや目的を持って生活や遊びに取り組む時期
- ・ 周囲の環境に自分から働きかけて行動し、友だちとのかかわりを深めながら、お互いの気持ちや考えを出しながら遊びを進めていく時期
- ・ 様々な遊びや活動の中で、友だちとイメージを共有しながら遊び、やり方や約束ごとを決めたり、協力し合って自分たちで進めていく時期

5歳児の保育の基本的なおさえとして、ほとんどの子どもは1～2年という幼稚園生活の経験を踏まえて、園生活の進め方や年長児の活動におおよその見通しを持っていること、また、実際の生活の中で活動の進め方や自分の役割を自覚して自分からやろうとする姿がみられること、この年長児としての喜びや自信を認めていくことで、自分たちの生活や遊びを能動的に進めていく態度を育てたいと考えた。この身近な環境にかかわることから次第に生活や遊びに広がっていき、この過程で直面するであろう困難や葛藤場面に積極的に働きかけていく姿を期待した。また、友だちとのかかわりが深まる中でお互いの考えや気持ちを伝え合い、自分たちのルールやイメージをもって生活や遊びを展開していかれる姿勢を育てたいと考えた。これらを踏まえて上記の発達の過程に対応させて、5歳児の年間のねらいを導いた。次に示すものは、5歳児の年間のねらいである。

<5歳児年間のねらい>

- I期：友だちや周りの環境に自分からかかわって遊びや生活を進める
 II期：友だちとお互いの考えや気持ちを伝え合って遊ぶ
 III期：友だちと共通のイメージや目的を持ちなが

ら遊びを進める

〔考察〕 I期のねらい「友だちや周りの環境に自分からかかわって遊びや生活を進める」は、前年度では進級当初から2ヶ月ほどで達成に向かい、II期のねらい「友達とお互いの考えや気持ちを伝え合って遊ぶ」に移行している。このII期は、すでにI期の後半には移行している子どもも数人いるという状況であった。また、II期のねらいは、後半の10月頃には概ね達成しているもののIII期のねらい「友だちと共通のイメージや目的を持ちながら遊びを進める」と重複して年度末までベースにあった。これらを考えると、他の学年と同様に、全員の子どもが各期ごとにスムーズに移行すると考えるのではなく、前の期のねらいを根底に置きながら特にII期はIII期と並行しておさえていくと考えるべきであろう。

(6) 各学年の具体的なねらいと内容の設定

前項に示された各学年ごとの発達の過程や年間のねらいは、幼稚園教育の全期間を見通しておさえたものであり、これらを幼児の発達の各時期に展開される生活に応じて適切に具体化したねらいや内容を設定する必要がある。そこで、本園では、年間のねらいのおおよその達成期間を基に、幼児の発達の過程と年間のねらいをさらに具体化してそれぞれの週に下ろして設定した。

① 3歳児学年

<表1> I期のねらい：安定した園生活を送る

	4月2週～4週	5月2週～4週	6月1週～4週	7月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のものや人、場所に慣れる ・ 園生活の中で、楽しいことを見つけて満足感や期待感を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活のおおよそがわかり、期待や自信を持って取り組む ・ 自分の好きな遊びを選んで自分からやってみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返しの活動はおおよその流れややり方をつかみ、自分から取り組もうとする ・ 保育者や友だちの動きをきっかけに遊びを広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から好きな遊びを選んで繰り返してやる ・ 保育者に嫌な気持ちや困ったことを伝えたり、物の要求を表したりする
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の施設(便所、水道、靴箱、ロッカー)を使う ・ 世話をしてくれる人や安心できる人に慣れる ・ 自分の好きな遊びや遊具で安定して遊ぶ ・ 紙芝居や手遊びなど、保育者からの働き掛けを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れてきた保育者や園の大人に親しみ、かかわる ・ 園の施設(便所、水道、靴箱、ロッカー)の使い方を覚える ・ 排泄や片付けなど、自分でできたことに自信を伝える ・ 保育者や大勢が参加している遊びに興味を持ち、真似たり誘われたりしてやってみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「お片づけ」「おしっこ」「お集まり」など、言葉とすることを結び付けてやろうとする ・ 固定遊具の名前、玩具や素材の置き場所を覚えて自分から行動する ・ 友達の使っている遊具や道具を見て、同じものを見たり真似たりする ・ 目新しいあそびや面白そうな遊びを見たら自分もやってみようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「できた」「おもしろい」など、遊びの中で自分なりの満足感を持つ ・ 面白いこと、楽しいことは喜んでやってみて自信を持ってさらに続けようとする ・ 遊びに使いたい遊具や材料など、見つからない場合は探したり、欲しいときは要求したりする ・ 遊びを邪魔された利使っている遊具を取られたりしたら、相手に不快な気持ちを表したり保育者に伝えたりする

＜表2＞Ⅱ期のねらい：自分の好きな遊びを見つけて
自分から遊ぶ

	9月1週～4週	10月1週～4週	11月1週～4週	12月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びに面白いと思ったことを取り入れる 繰り返しおこなってきたことや保育者を拠り所として新たな経験をする 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊ぶ中で、自分の考えや気持ちを表そうとする 保育者や友だちから刺激や動きを受けて、自分の遊びに取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味あるものや友だちに自分からかかわって遊びを続ける 友だちと遊ぶ中で、自分の考えや気持ちを表そうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味あるものや友だちに自分からかかわって遊びを続ける 関心ある友だちとの遊びで様々なかわりを経験する
内容	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある友だちの言葉や動きをきっかけとして同じ遊びをしたり真似たりする 新しいことやいつもと違うことでも、面白そうならやってみる 遊びに使う材料や道具を見て、前にした経験を思い出して保育者や友だちとやってみる 嫌なことや困ったことを相手に表したり保育者に伝えたりする 	<ul style="list-style-type: none"> 「入れて」「貸して」「だめよ」など自分の意思を表したり、友だちに言われたことに答える 保育者や友だちの言葉を聞いた、動きを真似たりする 自分が面白いと思ったことは保育者や友だちに伝える 友達や保育者のしている面白いことや新しいことを自分の遊びに取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の関心や今までの経験から、面白いと感じた遊びをやってみる 自分なりに工夫したりやり遂げたことを喜び、何度も繰り返す 「入れて」「貸して」などの自分の要求を様々な方法で相手に表して自分からかわる 友だちの真似をする、同じものを持つ、などの友だちとのかわりを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で作ったものを見せたり、見立てたことやイメージを伝えたり受けたりして遊ぶ 自分で考えたことやできたことを言葉や動きで表して共感されることを喜び 好きな友だちを誘ったり、相手の返事を聞いてから遊び始める

＜表3＞Ⅲ期のねらい：友だちとかかわって遊ぶことを楽しむ

	1月2週～4週	2月1週～4週	3月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味ある活動で、できるようになったことに自信を持って遊び続ける 友だちと遊ぶ中で、相手の行動に関心をもち、様々な体験をする 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味ある活動で、できるようになったことに自信を持って遊びを続ける 慣れ親しんだ保育者や友だち、場所を拠り所として新しい場所や活動に関心を向け、かかわる 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れ親しんだ保育者や友だち、場所を拠り所として、新しい場所や活動に関心を向け、かかわる 自分でできることに自信を持つ
内容	<ul style="list-style-type: none"> 面白かった遊びをしよう、必要な道具や材料を思い出して用意する 自分の力でできたことや、やり遂げようとしたことを認められて喜び、さらに続けたり新たなことを取り入れようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 面白かった遊びをしよう、必要な道具や材料を思い出して用意する 友だちとかかわりを通して、面白い、うれしい、困った、悲しいなどの感情を味わう 他学年との遊びや集会などに保育者や友だちと一緒に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の使いたいものや場所などを要求しながら、自分の思ったように遊ぶ 自分なりに工夫したり挑戦したりしてきたことに満足感を持って繰り返す 友だちを手伝ったり譲ったりなど、相手の行動を受けて自分の動きをしようとする 身の回りのことや生活に自分から取り組む

② 4歳児学年

＜表4＞Ⅰ期のねらい：安定して好きな遊びに繰り返し取り組む

	4月2週～4週	5月2週～4週	6月1週～4週	7月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 慣れ親しんだ友だち、遊具、場所を拠り所にして新しい場所や遊具に関心を向けて遊ぶ 身近な友達にお感心を持つ 園生活の仕方がわかって、自分ですようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活に必要なことに気づき、自分から取り組もうとする 好きな遊びを選び、繰り返し取り組む 友だちに興味、関心を持ってかわる 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の仕方を繰り返す中でわかり、率先して取り組む 好きな遊びを選び、十分に取り組む 友だちと触れ合う中で、一緒に遊ぶ楽しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたい遊びを見つけて、十分に楽しむ 友だちと触れ合う中で一緒に遊ぶ楽しさを味わう

内容	<ul style="list-style-type: none"> 新しい保育室や担任、ものになれる 気に入った遊びを見つける 関心のある友だちや保育者と同じ遊びをする 1日の生活の流れや自分の身の回りの始末を思い出して自分からする 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の指示を聞いてすることがわかり、自分から取り組む 使いたい遊具や、欲しい材料を保育者に要求する 自分から遊びに誘ったり、遊びの仲間入りをする 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助を受けて、自分の遊んだものや場所を片付けて、できたことに満足感を持つ 気に入っている遊びを選んで持続して取り組む 同じ場所にいる友だちの様子を見たり真似たりする 	<ul style="list-style-type: none"> 面白かったこと、再度やりたいと思ったことを繰り返しやってみる 友だちや保育者のしていることに興味を持ってやってみようとする 「入れて」「～したい」など、自分の気持ちを友だちや保育者に表そうとする
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

＜表5＞Ⅱ期のねらい：友だちに関心を持ち、触れ合いながら遊ぶ

	9月1週～4週	10月1週～4週	11月1週～4週	12月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分のしたいことを十分に楽しむ 友だちとかかわる中で、一緒に遊び楽しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの刺激を受けたり真似たりして自分の好きな遊びをする 友だちと遊ぶ中で、一緒に遊ぶ楽しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとかかわるを楽しむ中で、好きな遊びを繰り返す 友だちと遊ぶ中で、自分の考えや気持ちを表そうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと遊ぶ中で、自分の考えや気持ちを表そうとする 興味や関心を持ったことを取り入れながら、自分のしたい遊びを楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを友だちと誘い合っする 新しいことやいつもと違うことでも面白そうならやってみる 友だちと同じものを作ったり、まね合ったりして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が面白かったことを友だちに伝えようとする 友だちが自分のまねをしたり、話を聞いたりしてくれることを喜び 友だちのしている新しいことや面白そうなことを自分の遊びに取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で遊ぶ場所を決めたり、遊びに必要なものを選んで持ってきたりする 遊びに必要なものを作ったり、新しいやり方を試したり遊び方を工夫する 自分のやりたい役、使いたい遊具や場所など、自分の気持ちや考えを伝えて遊ぶ 簡単なルールある遊びを繰り返して、みんなで遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたい役、使いたい衣装や道具など、友だちに伝えて遊びや活動を続ける 繰り返しやっていることや、やり方を知っていることに対しては自信を持って取り組んだり、友だちに教えたりする 簡単なルールある遊びを繰り返して、みんなで遊ぶ

＜表6＞Ⅲ期のねらい：遊びの中の約束がわかって遊んだり、新たな遊びを加えたりする

	1月2週～4週	2月1週～4週	3月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 仲のよい友だちと考えや気持ちを出し合っって遊びを進める 繰り返し遊びを楽しむ中で、試したり工夫したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 仲のよい友だちと考えや気持ちを出し合っって遊びを進める 今までの経験を基に身の回りのことに自分から取り組もうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 周りのやり方を取り入れたり新しいやり方を試したりして遊びを続ける 今までの経験を基に身の回りのことに自分から取り組む
内容	<ul style="list-style-type: none"> 面白かったこと、発見したこと、驚いたことなどを友だちに伝えようとする 一緒に遊んでいる友だちの考えを取り入れる 今まで自分がわかったことや友だちのやったことを基に、遊びに使いたいものを選んで作ったりする 簡単なルールある遊びを友だちと誘い合っって遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に遊んでいる友だちの考えを取り入れる できなかったこと、つまらなかったことを保育者に伝え、解決のヒントを得ようとする 友だちと誘い合っって遊ぶ場所を決める 保育者の手伝いや年長児のしている動物の世話をやってみようとする 他学年との交流を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに使いたいものを選んで作ったりして一緒に遊んでいる友だちに伝える 嫌なこと、困ったことなどを友だちに言いつつ自分たちの約束ごとを決めて遊ぶ 年長児のすることに興味を持ったりまねたりする

③ 5歳児学年

＜表7＞I期のねらい：友だちや周りの環境に自分からかかわって遊びや生活を進める

	4月2週～4週	5月2週～4週	6月1週～4週	7月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になった喜びや自信を持ち、園生活に意欲的に取り組む ・友だちとやり取りしながら遊ぶ楽しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長としての生活に自信を持って自分から生活を進める ・気の合う友だちの中で、自分の考えを出したり、相手の考えを聞いたりして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びや活動に自分なりのイメージや目的を持って取り組む ・気の合う友だちの中で自分の考えを出したり相手の考えを聞いたりして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの遊びや新しい活動に自分なりのイメージや目的を持って取り組む ・気の合う友だちの中で自分の考えを出したり相手の考えを聞いたりする
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことを喜んだり、年長組という気持ちで生活を進めたりする ・新しい友だちや道具を知り、自分から遊ぼうと期待感を持つ ・今まで慣れ親しんだ場所や、やり方、友だちを拠り所として遊びを進める ・友だちと自分の考えや気持ちを伝え合いながら遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れの中で、自分のすべきことがわかり自分から取り組む ・新入児に対し、自分のできることを紹介したり、いたわりや世話の気持ちを持つ ・友だちの遊ぶ様子や使っている材料を見て自分なりのイメージで試したり、友だちの考えや動きを受けて行動したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「～してみたい」「こうしたらどうだろう」など、自分なりのイメージをもつ ・作ったり表現したりするものに必要な用具や材料を用意する ・試したり工夫したり繰り返し取り組む ・気の合う友だちと誘い合いながら好きな遊びをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し取り組んできた遊びには、したいことを決めて最後までやろうとする ・自分のしたい遊びを実現するために必要なことに気づき、試したり工夫したりする ・「～したい」「こうしたらどうだろう」など、自分なりのイメージを持つ ・遊び方を提案したり相談したりする

＜表8＞II期のねらい：友だちとお互いの考えや気持ちを伝え合って遊ぶ

	9月1週～4週	10月1週～4週	11月1週～4週	12月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの情報を取り入れて自分の遊びを選んだり、やり方を決めたりする ・自分の考えや気持ちを表してやりたいことを実現しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びや活動に自分なりの目的を持って取り組む ・自分の考えや気持ちを表してやりたいことを実現しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことを実現するために、試したり工夫したりして持続して取り組む ・気の合う友だちと遊びのイメージやルールをわかり合いながら遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動に見通しを持って取り組む中で自分のしたいことを達成していく ・友だちと共通の目的に向かって遊びや生活を進めていく
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・周りのものごと、自然物、遊びの様子などを見て、やってみたいことを選び、自分の遊びに取り入れる ・できなかったことや失敗したことにもう一度やってみようとする ・みんなで一緒にする活動に期待を持って取り組み、その中で自分でやってみようとして決めたことをやろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・試したり工夫したりして繰り返し取り組む ・「～してみたい」「～したらどうだろう」など、自分なりのイメージをもつ ・自分たちの遊び場を探したり作ったりする ・自分たちなりのルールを決めて遊びを続けて、より面白くしようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な用具や材料を自分たちで用意する ・前に経験したことを思い出して実現したい気持ちを持って繰り返しやろうとする ・難しいことや失敗したことにも再度やってみようとする ・自分のしたいことや気持ちを仲良しの友だちに繰り返し表していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し試したり工夫したりして遊びや活動を続けようとする ・自分たちの遊びや活動に必要な道具や場所を考えたり作ったりして進めていく ・仲間同士の遊びや集いなどの活動の中で自分の考えを表し、相談しながらする ・友だちと一緒にする目的がわかり、役割を分担したり交替したりして進めていく

＜表9＞III期のねらい：友だちと共通のイメージや目的を持ちながら遊びを進める

	1月2週～4週	2月1週～4週	3月1週～3週
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動に自分なりの目的や見通しを持って取り組む ・友だちと共通のイメージをもって目的に向かって遊びや生活を進めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動に自分なりの目的や見通しを持って取り組む ・共通の目的に向かって遊びや生活を進め、満足感を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動に自分なりの目的や見通しを持って進んで取り組む ・共通の目的に向かって遊びや生活を進め、満足感を持つ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくできたことや楽しかったことに満足感を持って繰り返し取り組む ・遊びに必要な用具、材料、場所を考えたり用意したりして進める ・みんなで進めていく遊びや活動の目的をわかって自分から取り組みようとする ・遊びのやり方や役割について話し合ったり交替しながら進めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な用具、場所、時間の見通しについて考えを持って繰り返し取り組む ・学級の友だちに必要に応じて自分の考えや気持ちを表しながら遊ぶ ・目的に向かうために友だちと相談したり役割を分担したり交替したりする ・試したり工夫したりして遊びに持続して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に向かうために友だちと相談したり、役割を分担したり交替したりする ・学級の友だちに必要に応じて自分の考えや気持ちを表しながら遊ぶ ・年中少組との交流の体験から自信を高めたり、卒園の意識を持ったりする

4. まとめ

教育課程と指導計画（月案、週案、日案）とは極めて密接な関係性にある。用語上では区別されて用いられているものの、教育課程の実施には、指導計画の作成、展開、評価までもが含まれていると考えるのが一般的である。したがって、教育課程は指導計画を含む広い概念で捉えているといつてよい。

教育課程と指導計画の関係性を考える上で、二つの考え方があある。一つは、全体の計画（教育課程）から、年間、月間計画さらには週案、日案へと下ろしていくという考え方があある。二つには、幼児の日々の生活している姿を捉え、それを短期の指導計画（日案、週案）に反映し、それを積み重ねて次第に長期の指導計画、さらに教育課程へとつなげていくという考え方があある。教育という視点から考えると、全体計画の見通しの上にそれぞれ個々の計画が立てられるというのが本来のあり方であるが、実際には、幼児の実態から経験していることを読み取り、それを積み重ねながら指導計画にまとめていくというやり方も必要になってくる。つまり、教育課程の編成にはこの二つがああると考える。

本園においては、初めて文章化するというこもああり後者の方法で行った。また、教育課程の充実を図るためにもまず日々の保育実践を確かなものにする必要がああるという視点に立ち、週日案の作成において幼児の実態の読み取りを確実に行った。このことにより、各教師は「今、育てたいこと」「育つことが期待されること」を明確に持つことができたのである。それは各教師が自分の保育を意識化することにつながると考える。

幼稚園教育要領では幼稚園教育は「幼児期の特性を

踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」と示されている。この「環境をとおして行う教育は、幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合って成り立つものである」また、「教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人ひとりの幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していくことができるように幼児の立場に立った保育の展開である」と解説している。⁵⁾ すなわち、環境を通して行う教育とは、保育者が幼児に直接働きかけるのではなく、幼児に経験させたい内容を環境の中に組み入れて、幼児の主体的な活動が生まれることを待つ、間接的な教育であるといえる。⁶⁾

したがって、保育者には、幼児一人ひとりにとって意味ある体験となるよう援助を重ねていくことが大切な役割となるのである。また、保育者がしっかりとした発達の見通しに基づいた計画性のある指導を行っていくことで、初めて幼児は発達に必要な経験を積み重ねていくことができると思う。

教育課程は、教師の「はたらきかけ」と保育の計画を立てるためのものであり、一人ひとりの幼児の生活する姿や、ある程度の発達の大まかな道筋の見通しが必要になり、そこに教育課程が意味を持つことになるのである。最も求められる教育課程は、幼児の「主体性」と教師の「援助」に囲まれた「子ども中心の教育課程」といえる。⁷⁾

教育課程を実施した結果、幼児の発達の実情や幼稚園や地域の実態に即したものとしていくために年度の終わりには反省、評価を行い、次年度の編成に活かしていくことが大切である。今後、本園においても、年度末にはそれぞれの時期の発達の過程を捉えなおし、教育目標の達成を図るためには入園から修了までを通してどのような指導をしなければならないかを見直し、次年度へつなげていく必要があると考える。

<参考文献>

- ・ 帝京めぐみ幼稚園「平成19年度教育課程」2007年
- ・ 小川博久著「保育援助論」生活ジャーナル 2000年
- ・ 東京学芸大学教師教育研究会編「実践的教師入門」東洋館出版社 2003年
- ・ 林信二郎編著「保育者論」樹村房 2004年
- ・ 文部科学省「指導計画と保育の展開」 2003年
- ・ 文部科学省「幼児理解と評価」 2003年
- ・ 東京学芸大学附属幼稚園研究紀要「新しい指導計画をまとめる」 2004年

<引用文献>

- 1) 文部科学省「幼稚園教育要領」 1999年 2p
- 2) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 1999年 49～50p
- 3) 小田豊編著「教育課程総論」 北大路書房 2003年 5p
- 4) 東京学芸大学附属幼稚園研究紀要「一人ひとりを生かす保育」1991年 12p
- 5) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」1999年 22～23p
- 6) 小田豊「教育課程総論」 北大路書房 2003年 4p
- 7) 小田豊「教育課程総論」 北大路書房 2003年 23～24p